

ワークショップ3	
タイトル	老年医学のクリニカルバンドル - 転倒予防チェックリストの実践とその障壁 -
日時	6月13日(土) 9:00-10:30
企画責任者	小坂 鎮太郎 (公募企画)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>「老年医学」をプライマリケアの必須研修に！</p> <p>総務省の報告では日本の高齢者(65歳以上)人口は3186万人(平成25年9月推計)で、総人口の4分の1を占め、今後も増加する見通しとなっている。これを考えるとプライマリケアに携わる者が老年医学を学ぶことは必然であり、本セッションでは特に老年特有の予防医学とその遵守率向上に焦点をあてて考えたい。医師、看護師、リハビリテーション、薬剤師、栄養士、など多職種による議論から高齢化社会を支える効果的な方策が生まれ、普及させることを目的とする。</p> <p>テーマに「転倒」を選んだ理由は、「転倒・骨折」が日本の要介護の原因第3位で、大腿骨頸部骨折の発生数が年々増加しており、その90%以上が転倒に伴うものであるため予防の重要性が高いと考えたからである。</p> <p>この経験をもとに、自施設の外来や病棟で「効果的な転倒予防策」を実現出来るようにすることが本セッションの最終目標である。</p> <p>【概要】</p> <p>まず始めに、幅広い老年医学の中でもエビデンスと影響度が強い予防医学の5項目について老年医学のクリニカルバンドルとして提案・概説させていただく。さらに、その1項目である「転倒」をとり挙げ、講義を行った後に、その効果的な予防策を運用する方法を学ぶ。</p> <p>「効果的な予防策」を実践するには。</p> <p>実際に様々なエビデンスやガイドラインが存在しているにもかかわらず転倒予防策の遵守率が低い問題の解決策として、様々な領域で成果を出しているチェックリストの導入を提案する。具体的には、我々の施設で使用しているチェックリストの見本を提供し、そのチェックリストをどのように実践的で効果的なものとするかグループで議論を深めながら運用方法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 老年医学、転倒、多職種、バンドル、チェックリスト、ガイドライン</p>	